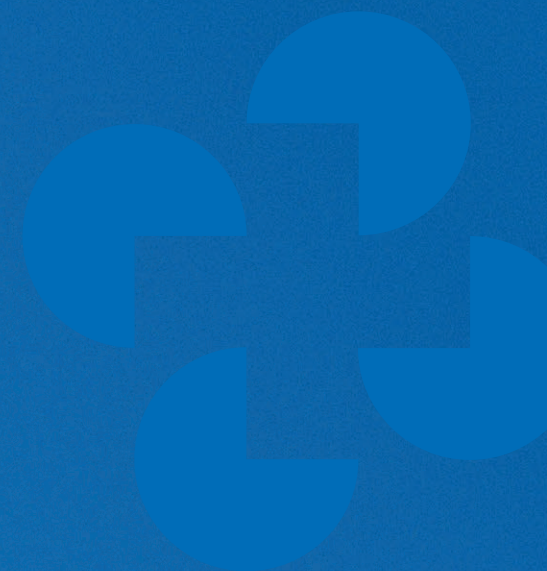


KIDNEY DISEASE CENTER

大野記念病院
腎臓病センター



PLACE OF ENRICH YOUR LIFE.

透析医療の新しい未来のカたち。

患者さん一人一人に寄り添い、
ADLの維持に努め、
「歩いて通える透析室」を目指します。

大野記念病院では、昭和51年の人工腎センター開設以来、45年以上にわたり、透析を必要とされる方々に安全で質の高い透析医療を提供してきました。12床からスタートした腎センターは、現在82床まで拡大し、腎臓内科医・泌尿器科医が連携し腎臓領域の診療を担っております。

腎臓病は、軽度の尿所見異常のみの軽症の段階から、腎代替療法が必要な末期腎不全に至るまで、急性の経過を辿るものから30年以上にわたる慢性の経過を辿るものまで幅広い病状を呈します。当院では、患者さんを中心に透析に至る前の保存期から、透析導入期、維持透析期まで、それぞれの段階に応じた最適な医療を提供できる体制を整えています。また、長期に及ぶ治療であり、合併症を起こしやすいです。その為、様々な苦痛や不安を抱えている患者さんも少なくありません。そうした患者さんの負担を出来る限り軽減するために、看護師、臨床工学技士、薬剤師、栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカー等とともに個々の専門性を活かしながら、安心して治療を受けられるようにチーム医療で、患者さんのサポートに取り組んでいます。

特に多職種からなるチームによる食事や運動、生活指導を行うことで、生活習慣病の重症化を予防し、合併症の発症を防ぐために尽力しています。

少しでも長く歩けることを大事に考え、「歩いて通える透析室」をモットーに、患者さん一人一人のニーズに寄り添った、透析医療の実現に、さらなる努力をしていく所存です。

社会医療法人 寿楽会 大野記念病院
副院長
腎臓病センター センター長
大野 良晃



令和3年度
透析患者数

3,111名



令和3年度
特殊血液浄化療法件数

135件

特殊療法にも対応

持続的緩徐式血液透析濾過43件／
血漿交換療法2件／エンドトキシン吸着療法6件／
LDL吸着療法29件／腹水濾過濃縮再静注法13件／
レオカーナ実施件数42件

令和3年度
入院・外来合計栄養指導実績



1,333件

健康管理の実施

長期透析療法における合併症を予防することを
目的に、計画的に栄養指導を行い、適切な栄養
管理を実施。

大規模
透析

腎臓病センター
病床数

82床



病床82床のうち隔離
2床・半個室4床の
ベッドを用意。

腎臓病センター職員数

62名

※令和4年10月1日時点

多職種に
よる連携

臨床工学技士25名、看護師
20名、助手・クラーク13名／
医療ソーシャルワーカー1名／
事務3名

令和3年度
透析実施回数



40,713件

多様な対応が可能

腹膜透析 (CAPD) 患者数延べ250名

令和3年度
新型コロナ罹患
透析患者透析実施件数

549件

柔軟な対応が可能

隔離透析などにより、感染症にも対応可能。

令和3年度
透析関連手術件数

142件

導入から
透析まで

シャント造設手術32件／
PTA手術108件／
内シャント血栓除去術2件

透析医療での確固たる実績。

これまで培ってきた実績が私たちが信頼されてきた理由

大野記念病院の目指す透析医療

歩いて通える透析室

患者さんとの対話を通じ、
患者さんそれぞれに寄り添った
質の高い透析医療の提供を行います。

01 - 多職種による連携

医師だけでなく、看護師、臨床工学技士、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカー等それぞれの専門領域を最大限発揮し、患者さん中心に連携のとれたチーム医療を行います。

02 - 患者さんに寄り添う医療

「歩いて通える透析室」をコンセプトに、可能な限り患者さんのADL向上に努めます。送迎車から透析室までの移動等、患者さんのペースに寄り添い安全を確保しながら、移動できる環境を構築します。また、患者さんの足の健康を守るためにフットケア、爪のケアを重視し、透析室でのフットケア活動に力を注ぎます。

03 - 時代に合わせた安心安全な透析医療

日々透析技術の向上に努め、最新の技術や知識の習得に努めます。透析機器及び透析周辺機器への積極的な投資を行い患者さんの全身状態に合わせた治療のニーズに応えます。療養環境の改善に力を入れると共に隔離個室対応など感染予防対策を講じることで安心、安全な透析医療の提供を行います。



広々としたエントランス



毎日40名以上の体制で対応



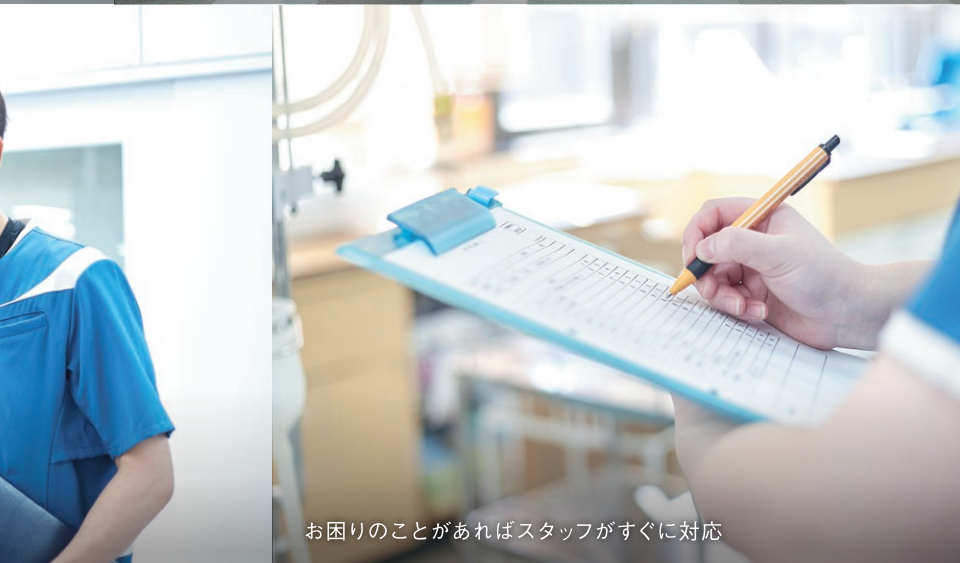
感染症対策として完全個室のベッドもご用意



安全で質の高い専門医療をご提供



患者さんの情報を適切に管理



お困りのことがあればスタッフがすぐに対応



24時間緊急透析対応可能



腎臓病センター内に半個室のベッドをご用意

未来の 透析医療を 支える

透析をしていない時間を より豊かに

井上 圭右

腎臓内科

医学博士／日
本内科学会認
定内科医／日
本腎臓学会腎
臓専門医

大阪公立大学
医学部医学科
(1992年卒)

患者さんやご家族が病気のことを考えずに生活できるようになったらいいのと思うことがあります。透析をしていない時間がよりよく過ごせるようにお手伝いしたいと考えています。

市川 峰大

腎臓内科

日本内科学会内科専門医 滋賀医科大学(2016年卒)

毎週3回、1回4時間ほどの透析は肉体的にも精神的にもお辛く感じる人が多いと思いますが、お力になれば幸いです。

様々な職種の 総力を結集し、 チームで対応

大野 良晃

腎臓内科

医学博士／日本内科学会認定内科医／日本腎臓学会腎臓指導医／日本腎臓学会腎臓専門医 身体障害者福祉法第15条第1項による指定医師じん臓機能障害指定医師

久留米大学医学部医学科(2005年卒)

透析患者さんの高齢化や導入の高齢化等、透析医療は大きく環境が変化しています。病院内の職種だけでなく、在宅系の多職種とも連携をとり、患者さんにとって最適な診療を行っています。

最善の 治療を

浅川 純平

泌尿器科

医学博士／日本泌尿器科学会泌尿器科専門医

帝京大学医学部医学科(2013年卒)

最善の治療は患者様個人で変わってきます。一緒に考えていきましょう。

宮崎 祐宗

腎・糖尿病内科

日本内科学会認定内科医／日本抗加齢医学会専門医(2023年1月～)
大阪医科大学(2015年卒)

透析導入患者さんの原因の第一位は糖尿病性腎症です。外来では糖尿病・脂質異常症・高血圧など、透析にならないようお手伝いさせていただいておりますが、透析となった場合にも個々の患者さんに応じて、健やかな生活のサポートができればと思います。

あらゆる 腎代替療法 に対応

杉田 省三

泌尿器科・腹膜透析

医学博士／日本泌尿器科学会泌尿器科指導医／日本泌尿器科学会泌尿器科専門医／日本泌尿器科学会日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医／日本透析医学会指導医／日本透析医学会透析専門医

大阪公立大学医学部医学科(1997年卒)

血液透析・腹膜透析、いずれの腎代替療法にも対応致します。今後も、末期腎不全の患者様に寄り添った診療を続けていきたいと考えます。

小川 未来

腎臓内科

日本内科学会内科専門医

透析医療は患者様に長いお手伝いをさせていただく診療になります。ガイドラインや医学的に守るべき基準も大切ですが、その人一人一人の生活様式に添った治療と一緒につくりあげていきたいと思っています。

榎野 亮次郎

腎臓内科

日本内科学会認定内科医／日本内科学会総合内科専門医／日本腎臓学会腎臓専門医／日本腎臓学会認定指導医／日本医師会認定産業医／身体障害者福祉法第15条第1項による指定医師じん臓機能障害指定医師

近畿大学医学部医学科(2006年卒)

大野記念病院透析室の目指している長寿命透析かつ健康寿命を維持できるよう適切な透析医療を提供できるよう努めてまいります。

常に ストレスのない 治療を

牧野 哲也

泌尿器科

医学博士／日本泌尿器科学会泌尿器科指導医／日本泌尿器科学会泌尿器科専門医／日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医

大阪公立大学医学部医学科(2003年卒)

腎不全治療は、長期戦です。常にストレスフリーな状態で治療を受けられる様に、最善を尽くします。血液透析に関することは勿論ですが、それ以外の悩み、困り事等、何なりと相談して下さい。

樋口 佳世

腎臓内科

日本内科学会認定内科医

透析患者さんの病態だけでなく、心情にも寄り添った治療を心掛けています。治療中の不安や疑問など、気軽に聞いていただければと思います。

シャントに関する 治療は お任せください

岩村 陽裕

泌尿器科

大阪公立大学医学部医学科(2016年卒)

現在32名の維持透析患者様を担当させていただいております。院内でのシャントトラブルに対するVAIVTやシャント造設等の手術加療も血管外科医師とともに対応させていただいております。シャント関連でお困りのことがございましたら、いつでもご相談ください。

PLACE OF
ENRICH
YOUR LIFE.

昭和51年	人工腎センターを開設。12床、患者数4名
昭和60年	天王寺付属診療所を開設(透析サテライト)
平成3年	日本透析療法学会認定医制度に基づく認定施設に認定
平成5年	第40回大阪透析研究会を当院主催で開催 上記で当院透析チームが優秀論文受賞
平成13年	腎臓病センターの整備 4床増加
平成15年	腎臓病センター運営委員会の設置 腎臓病センター構造改革 (腎臓内科、腎臓外科の位置づけ、看護部門と臨床工学部門の位置づけなど) 臨床工学科の新設
	大野病院附属診療所を寿楽会クリニックへ改称
	寿楽会クリニック改修工事完工
平成16年	大阪透析研究会日本透析医学会(神戸)で7題発表 腎臓病センター、内科、外科、看護部、臨床工学科
平成19年	日本透析医学会総会参加
平成20年	DPC診療導入
平成23年	ハーバータウンクリニック開設
平成23年	病院透析患者送迎サービス開始
令和2年	腎臓病センター部門として独立
令和4年	82床(うち隔離2床、半個室4床)

46年の診療実績で 患者さんの豊かな人生を支えます。

昭和51年に透析医療を開始して以降、46年が経過しました。12床から始まったベッドも、現在、本院(大野記念病院)82床、ハーバータウンクリニック25床、寿楽会クリニック21床と法人内で合計128床となっています。透析患者さんのニーズにあった透析医療を提供するため、法人内で連携をとり、より質の高い医療を受けられる体制を構築しています。今までの診療実績を基盤にしつつ、今後、さらに安心して質の高い透析医療を提供できるように研鑽してまいります。



社会医療法人 寿楽会 大野記念病院

大阪市西区南堀江1-26-10

TEL.06-6531-1815/FAX.06-6536-6390



www.ohno.or.jp